

高野町出身の漫画家 瀬尾公治さんが週刊少年マガジンに連載中の『君のいる町』と連携して庄原市をPRする『君のいる町×庄原市』コラボレーション事業として、講談社が制作を進めてきた『君のいる町』オリジナルアニメDVDが完成し、3月16日から発売が開始されました。

これは単行本第17巻のDVD付き限定版として販売され、本編部分約25分とアニメキャラクターによる庄原市の観光スポット紹介部分約5分が収録されています。

この事業は本年度も継続し、第2弾として単行本第18巻のDVD付き限定版が制作されます。今回と同様にアニメキャラクターが庄原のグルメイベントを紹介する内容が収録される予定です。発売予定日は6月15日（金）、申し込み締め切りは4月30日（月）となっています。お早めにお近くの書店でお申し込みください。



©瀬尾公治/講談社  
パッケージの背景はこの漫画の始まりの舞台である高野町の風景が描かれています。

工課  
商観光

『君のいる町×庄原市』コラボレーション事業  
オリジナルアニメDVD完成

業課  
農振興

農業が支える定住社会の復活を目指して  
庄原市農業振興計画を策定

市は、本市の基幹産業である農業の将来像を市民の皆さんと共有し、農業のさらなる発展に向け、「庄原市農業振興計画」を策定しました。

この計画は、自然環境に配慮しながら、消費者へ安全・安心な農産物を安定供給し、収益性の高い安定した自立経営を目指すための新しい指針となるものです。

計画期間は平成24年度～27年度までの4年間です。

市は、庄原市長期総合計画の中で、農業振興を基本政策の「さとやま資源の活用で地域が輝くまち」に位置付けるとともに、重点戦略プロジェクトを策定し、農業による定住社会の復活を目標に、幅広い連携と協働で、継続・安定的な収入を得ることができ、農業の再構築に取り組むための施策を進めています。



今後は、市民の皆さんや関係機関・団体などこれまで以上に幅広い連携と協働を推進し、目指す姿の実現に向けて積極的に取り組んでいきます。

なお、この計画の概要版を生産組織などを通じて配布する予定です。



ワークショップの様子(西城会場)

庄原市の地域医療を考える会(庄原市医師会・庄原赤十字病院・庄原市の三者で構成)が3月4日、『災害時における地域医療を考える』をテーマにしたシンポジウムを庄原市ふれあいセンターで開催しました。

東日本大震災の発生後に派遣された庄原赤十字病院救護班、日本赤十字社こころのケア班、庄原消防署、庄原市保健師の皆さんがパネリストとなり、現地の状況を写真や映像を交えて報告。それぞれが感じた思いやそこで浮かび上がった課題などを挙げながら、今後大規模災害が発生した場合にどのような生かしていくかを、共に考え合いました。



シンポジウムの様子

来場者は、終始真剣に耳を傾けていました。

健課  
保医療

東日本大震災から地域医療を考える  
庄原市の地域医療を考える会シンポジウム

わかりやすい言葉に参加者は引き込まれていました。

その後『市民が安心して安全に暮らせるまちづくり』をテーマにワークショップを行いました。最後は参加者全員が手をつなぎ1つの大きな円になり、このつながりを絆として、それぞれの力を出し合いながらまちづくりに取り組むことを確認しました。



最後はみんなで輪になりバンザイ(庄原会場)

治課  
自振興

まちをつくる みんなでつくる  
まちづくり実践ネットワーク講座

自治振興課  
自治振興区の新たな拠点に  
2地域がセンター化

西城・比和地域の公民館が、4月から自治振興センターに移行しました。

施設の指定管理を受けた自治振興区は、事務職員を雇用し、自治振興センターを中心とした広域的な地域活動、生涯学習活動に取り組みます。

| 地域 | 移行前   | 移行後施設名称    | 指定管理者(再編した自治振興区) |
|----|-------|------------|------------------|
| 西城 | 西城公民館 | 西城自治振興センター | 西城自治振興区          |
| 比和 | 比和公民館 | 比和自治振興センター | 比和自治振興区          |

機  
管理課

東日本大震災  
支援状況

|                             |                                     |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| 集まった義援金                     | (平成24年3月9日現在)<br>1,169件 82,804,648円 |
| 市義援金                        | 20,000,000円                         |
| 被災地へ送った救援物資<br>食料品、飲料水、衣類など | 27,816点                             |
| 職員派遣・短期派遣<br>(H23.4～H23.9)  | 事務・技術職 延べ30人<br>保健師 2人              |
| 中・長期派遣<br>(H23.8～H24.3)     | 建築職 延べ8人                            |

昨年3月11日の東日本大震災発生以来、市は災害支援対策本部を立ち上げ、被災地の支援を行ってきました。救援物資、義援金を被災地へ送り、人的支援として宮城県東松島市と気仙沼市へ1年間、延べ40人の職員を派遣しました。

被災地では徐々に復興は進んでいるものの、今もなお仮設住宅での生活、原発事故の影響による避難生活を多くの方が余儀なくされています。市は、今月から引き続き宮城県東松島市へ職員(技術職)を派遣し、道路などの復旧業務に携わっていく予定です。